【令和７年度　灘区自立支援協議会の取り組み】

地域課題	取り組み
親亡き後の暮らしの場として考えられるグループホームの数は増えているが、高齢の親ほど見学に行きにくくつながりにくい。	本人、家族に灘区内のそれぞれのグループホームの特色を知ってもらい、将来、安心して生活できる環境があり、生活支援を受けられる事業所の情報提供の機会とするため「灘区グループホーム事業所説明会」（10月27日）を実施した。灘区内６事業所のグループホームから説明を受けた。参加者７５名。支援内容、利用料金、金銭管理などの質疑応答があった。
グループホームと日中活動の場のつなぎ目や放課後等デイサービスから成人通所施設へ移行した時のサービス時間が変更になったことでできる空白の時間の居場所がない。そのことで、本人の意思にかかわらず移動支援を利用する状況がある。どこで過ごせばよいのかわからず有意義な時間を過ごせていない。	グーグルマイマップを使用して、灘区内の社会資源（福祉事業所、居場所となるような活動場所、ほっとかへんネット灘施設、公園の身体障害者トイレなど）をマップに情報を部会員が入力して作り始めた。
・障害種別に応じた災害時の具体的な支援について、民生委員、児童委員や地域住民の方に知ってもらうためにその手段の検討と地域啓発。 ・自分たちで事前にできることとして在宅避難の準備について考える。	・稗田地域防災訓練（10月25日）に参加して地域住民や民生委員、児童委員との地域交流促進を図る。障害者介助体験ブース（車いす介助体験、視覚障害者歩行介助体験、聴覚障害者介助体験）、障害のある方の介助を地域住民や民生委員、児童委員に経験してもらうことで障害理解啓発につなげるために実施した。 ・被災地への募金活動（12月2日～4日）を実施した。集まった募金103,293円をJDF（日本障害フォーラム）へ送った。
・計画相談支援を辞める相談支援専門員の多くが、相談できる場がないと感じている。 ・山手地域にヘルパーが行く場合、バイクか車を使用する必要があり、駐車場やトイレの問題、人件費と燃料費が高騰していることもあり、報酬単価に見合う利益が出にくい。なお、ヘルパー不足のため代わりのヘルパーが用意できない状況である。	・相談支援専門員同士のつながりの強化と、日々の実践に活かせる学びの機会の創出を目的に2か月に1回実施した。 ・相談支援専門員とヘルパー事業所が集まり、ヘルパー調整プロジェクトを発足した。その山手地域に、数件続けてサービスに入ることができたり、ヘルパー事業所同士で連携してカバーし合うことができればサービスに入りやすくなる。そのためヘルパー調整するためのツールについて検討している。

・放課後等デイサービス事業所は、送迎に時間と人が必要になり療育支援の時間が削られている。 ・学校では放課後等デイの送迎車が並び近隣からクレームが出ている。 ・山間部や海側など送迎の対象から外れている地域がある。	・同じ利用者が放課後等デイサービス事業所を併用していることから、その放課後等デイサービス事業所同士で共同送迎が可能になるのではないかということで検討を進めている。 ・送迎に関する学校への協力依頼（情報共有の方法等）として、灘区校長会で放課後等デイサービスの送迎事情を説明し、ホームページに下校時間を早く載せてもらいたいことを依頼した。 ・山間部や海側など送迎の対象から外れている地域があるといった課題が出ているため新たに提案できる解決策を検討している。